

6 繁殖搾乳農場における山羊関節炎・脳脊髄炎（CAE）清浄化に向けた取組（第1報）

南丹家畜保健衛生所

○阪井浩貴 塚本智子

【経過】平成30年12月管内繁殖搾乳農場において関節腫脹と呼吸器症状を呈する山羊が散見。当該農場は平成14年に本病発生農場から山羊を導入した経緯があることから、本病を視野に入れた浸潤状況検査と症状を呈する個体の病性鑑定を実施。本病の侵入が確認されたため、農場管理責任者との対策会議を持ち、農場側の清浄化を目指す強い決意を受けて当所は支援を実施。【検査結果】①全頭の遺伝子学的検査及び抗体検査で31頭中17頭陽性（感染率54.8%）。②起立不能を呈し死亡した山羊1頭を病性鑑定。その結果、前肢手根関節でフィブリン様物の集塊を含む関節液の増量を認め、遺伝子学的検査では関節液や乳腺等からCAEV特異的遺伝子を検出、病理組織学的検査では非化膿性関節炎及び非化膿性間質性乳腺炎を認めたことから、CAEと診断。【これまでの取組内容】①感染の有無により畜房と放牧場を分離。搾乳順序を陰性山羊からに変更。②分娩後直ちに親子分離し、低温殺菌処理初乳と人工乳を活用し垂直感染を防除。子山羊は感染リスクごとに区画分けして飼養。③殺虫剤、トラップ、草刈りにより吸血昆虫による媒介のリスクを低減。④陽性山羊の計画的更新。⑤初回のCAEV浸潤状況調査で陰性であった山羊に遺伝子学的検査を実施し、陰性を確認。【清浄化に向けた今後の取組】定期的な浸潤状況の確認、農場との対策会議を継続し、取り組みの効果を検証しながら3年以内の清浄化を目指す。